

百七十席

桃川桂玉口演
浪上義三郎速記

◎ 津村兄弟商會
一四八〇番
一八七〇番
京城本町壹・電話

命を捨つるゝあらば願ひを叶へて
選はすゝ承知いたしたさうでござ
います 秀「イヤ面白くない、それ
り如何した」ぞお尋ねになりま
す。

通信要話

(ロ)支那に輸入するを得るもの
 鉢器、重刀、鉢類其他各種の兵
 及軍需品、刀劍、仕込杖其他類
 の暗器、刀劍、強鎗、モルヒネ及
 注射器、コカイン及其子粉等
 行參、流通貨幣及金銀、金
 字を以て郵便券に出に際する「附票」
 記述して置きよす
 (一)通貨は價格表記せざればは
 出すを得ず
 (二)金銀、寶石、珠玉其他の貴

其他の注意事項

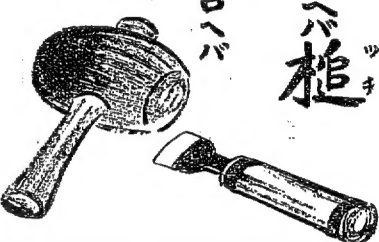
以上の外郵便物の差出方に關し、
 意すへき事項左の如し
 (一)普通通達郵便物は郵便函に
 入るも容積大なるか又は個數
 多くして差入るること能はず
 ときは郵便局所に持参して差
 すべし
 (二)小包郵便物及特殊の取扱を要
 するものは必ず郵便局所に差
 すべし
 (三)逓送郵便に限り特に差出
 請求に依り取寄人を店宅に差

三月十六日
(舊)二月十五日
日曜日のさいふ白

一白もつれ事柄の生じ易き。
 二黒、要角長し短しに終る。
 三赤、命運の日に意欲の
 利益を愛くるやと知れず、
 四青、貴の日にて或は目
 行引を受けるやと知れず、
 五黄、一寸計まりのつかぬ。
 六白、うまく行けば思ひが
 利を得るやと知れず、
 七赤、目下よりやてゐる
 下やかな難きなる日な。
 八白、感通ひのこまなり。

眼病ト言ハ

014

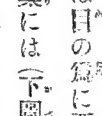


論より證據
直ぐお試し

ロート目薬と異なる特色

(一)ロート目薬は眼科を以て有名なる東京
眼科病院院長獨逸醫學博士井上豊太郎先
生の處方に保り大前藥學士の鑑査を經
たれば患者は安心して用ゐることを得
(二)病眼を不潔の手布等にて拭ふ
は目の疾に惡し故にロート目
薬には(下圖の如き)消毒した
る布を添ふ

0 六六六

A rectangular box of eye medicine. The top part of the box has a dark background with white Japanese text. Below this, there is a lighter section with more text and a small illustration of a person's head in profile, looking towards the right. The box appears to be made of cardboard or wood.

目藥

(三) 點眼器てんがんしの鋒さきの尖りたるは目に危き険けんなり
 □くわートの點眼器てんがんしは鋒さきを丸まるくしたる故ゆゑ倍ばい
 險けんの恐おそいなり

比較 ひかく
ハ品質の優劣良否を判斷する一番の早道であります。

故にロート目薬と他の目薬
とを比べ玉へ
効能
一切の目病に於ては他の目薬と云は
ぬ効能あり。但しロートには効なし
定 價 大瓶 十錢 中瓶 十錢 小瓶 十錢
舖東京市日本橋區本銀町三 山田安民藥房
大坂市東區南久寶寺町二 山田安民藥房
全國各藥店に價賣す

赤毛ポードワイ

實行に於て本邦
葡萄酒界のレコード
を突破したる赤玉

七、大醫學博士の賞讀ある美味滋養の

「赤玉ポルトワイン」は、倫敦補血調養強壯に其効顯著なる事は既に大醫博士の賞讃、証明せらるゝ所にして今や一般治療上、試くべからざる滋養藥として客藥局に採用せられつゝありけるに自然の美味を缺せずれば婦人小兒の口にも適し最も理想的の滋養強壯酒類なり

三月のお料理案内

嫁菜、土筆、芹、三つ葉などに春の露を味ふもよかるべく
 始めの吸物、薬膳、薬などにも妙也、若鮎、底鱈、鱈、さす、
 こち、かながしら、鯉、鯉、鯉、はば、鮎、あさり、赤貝、
 山鳥、雉、小鳥、花柚、生椎茸など舌を悦ばすもの多し

味の素



良い品は良く賣れる道理

争はれぬ事實は其の賣行を見よ！！

近來類似品續
出す
赤玉印に充分
御注意遊ばせ

仁川米豆取引所
十四日の五月限

北島春石作 森田久請

[illegible][illegible][illegible]

京日案内



ルビック

男入申越の方にて
播磨町一郡所前

出窓にリク
の過渡階
効ある供
意欲を全
キラスと
せり助け
る銀
山家本

愛する良人の爲に

美乳

を

[illegible][illegible][illegible]

▲高橋の創業集 金銀紙
電話一四四三番 版本
古熱心造價買人 御報費
一九九番 將次草
電話二八六番 國産古物
金貨 電話一八六番 國産古物

朝夕必ず用つて居ます！

もの、作の語で
は、な顔、提
つてゐるさ。時で
すがね、ハ、新地
遊藝場を、娯屋、信
用する様子なく
「わたしはこんな
事を書ひ出すと、ま
海間にふゝある嫁
いびりをするやう
に思ひますが、
その實、彼嫁のこ
めには誰よりも強
い味方です。間に
さうした秘密があ
らうとも、先の良

[illegible][illegible][illegible]

優待旅館 並高等御下
東京大前門丁二丁目六番地
中學校前電燈 云三

ゴム玩具大賣出
〔定置品〕人用ガ、無類舞臺用品、通太太陽、商會、五絃琵琶、教、木火水西、新、上七、本、古、高價買

恩賜金 江利、來、開、山、日、化

古ミシン 高價買

桶商店

入院
 隨意
 片山内科醫
 片山信次
 電話一九五一番
 大

京本町一丁目七十三番町（通り）
 本舖 大學白粉本店 矢野芳吾圖
 （美乳）瓶 貳十五錢……純白美乳一 瓶 參十錢

かしからぬ理由もあれば、何う
とも停む存のて無難だけは思ひ止
まらねば。これはさへ嫌を言はれ
思ふ真心が通じたに、愛しめ願
し立てはせずにください。

「はい、はい、」紫若は虎の下に
流るゝ冷汗を拭ひうち歌へす「これ
は何とも恐れたる心だ。」

「い、いや、」恐入つたさだけ
では、要する其と戦闘がつき象
なれます。「猶ほ心から出づる
熱心さを見せよ高麗族はうつか
り話ならぬ」とある高麗さんが
語ることは、可笑なく危なさす
きて信用するに、遠くしい女の
腕んだが、驚かしい女の體目

にしろ、神匿子・祓問し女へ嫁付
たのは、体から金引申すまで

「はい、御慰居さ、」果は白髪頭
にすりすりつけて、何もかもハヤ
目立たぬない事で、「志度子
んに啗ひ秘密があつた知ながら
初婚して貰つて神祕書・嫁付けたは

東京東四軒町
牛乳御用岡野牧場
電話一六〇九七番

松盛さん手前の罪でござす。未だ當
分は大丈夫油斷しない以上、最
低して悪事を隠したては致しません。
何事も隠し立ては致しませんゆ
へうか一通りの事情が有るお聞き
を願ひます。

「はい、さんとお話でも……」
と、ますます一時のすゝむん覺けぬ
又善は男子の手紙には除名附
たもので、近頃は之より何
なるてしまふやうで、

斯う云ふ風
書いて欲し
來来手紙の書き方がなまじり
人が嫌だといやうに考へた
人は畢竟さうに今の世に

○禮式 なき云ふ事、
見る爲です終るに昔は手紙
きたなきは随分八疊し言ひ
て一本の手紙には二禮式
備させなければならぬ
つて居ました假へば幾番書
綴書いたりますに、加
たもので、近頃は之より何

[illegible][illegible]

大日本優等清酒

衛生無害

品質純良

白鶴

嘉納合名會

東京本町三丁目廿番地

前田酒

電話一千三百四十五

大阪口屋四三

取次販賣所 大坂屋 岩松堂

發賣元 京都日報社代理

入學の榮を得たき學生諸氏は
至急本書を座右に備へられよ

大正七年四月一日發賣
定價金五十錢 發賣四錢

高等女子學校
高等普通學校

言馬 卷案

魔法療法 中野博士
 〇城町目黒電報局西側
 高木旅行用具店
 〇店員募集 株式
 〇知友 有田 三
 〇大正 理物 門通 三
 〇南門 門通 三
 〇帳係 係人 用 年 三
 〇但 內 轉 入 係 以 前 三
 〇京 城 南 門 通 三
 〇集 金 人 募 集 助 三
 〇京 城 南 門 通 三
 〇朝鮮 滿洲 三
 〇店員 入 用 二 十 六
 〇京 城 本 町 一
 〇電話 讓 物 あり
 〇但 し 聲 まで
 〇御 老 方 ば
 〇電 報 八 七 七

痔疾専門

京師府出町二丁目（本町太閤入道）
京城久枝江門病院
大坂助三郎

もし貴下の梅毒がこ
れ迄の薬で思はしく
なかつたら最後に
カトウの**百毒下丸**
服用あれ………
英く藥店で御求めの上、

大阪市花園街
宝松製薬加一舖
電話七五二六 六〇三三番電

造船界愈不振

建造に依りて辛くも職工の解雇をして既定計畫のみにして新煙塔
防ぎ居る始末にして一千噸級以上皆云ふ

○汽船合同協議

十三日は内田嘉吉野村一郎
來朝せしければ十四日更めて

を模倣し、か指點阿波の目的を以て、
模倣し之を水鏡に來れり、
客年十一月九日、
...

ける鮎を群魚にして東